



広報 おおいだ 2012/1 No. 667

編集・発行 大石田町総務企画課  
〒999-4112 山形県北村山郡大石田町緑町1番地

0237-35-2111 FAX 0237-35-2118

印刷 中央印刷株式会社村山支店

# 広報 おおいだ

<http://www.town.oishida.yamagata.jp>

## 今月のページ

- ▶ 年頭のあいさつ..... 2
- ▶ 町県民税申告相談のお知らせ..... 4
- ▶ 除雪作業はルールを守って安全に..... 5
- ▶ 将来の夢・希望..... 6
- ▶ ニュース玉手箱..... 8

**1** 2012  
No. 667

## 年初めの運試し!! 里山スキー場好評営業中!



矢印に沿って最後のページ「楽々き帳」をご覧ください。

# おいしだものがたり

最上川舟運の話



## その51 最上川と観光(2)

### 大正から昭和の「舟遊び」

大正10年(1921)ごろ、最上川舟遊び用の遊覧船として「阜月丸」が建造され、就航した。舟遊びを大いに楽しめるようにと、川舟としては豪華に仕立てられたものであった。また、芸者も乗船させ、舟下りを楽しみながら酒肴に舌づつみを打つという趣向をこらした経営であったが、永続させず、大正14年(1925)ごろ廃業した。

ひき続いて、昭和2年(1927)ごろ、二艘の舟を横並びに連結して板敷きをしき座敷をつくり、楯岡から芸者を呼び、酒宴を催すという贅沢な舟遊びを営業した。しかしこれも永続きはしなかった。

昭和34年(1959)、虹ヶ丘から大浦間の新観光ルートの最上川舟下りを開始した。町商工会を中心に、最上川観光ルート資源開発調査の結果に基づいて行われた事業ではあったがこれもごく短期間で終わってしまった。(『写真でみる大石田のあゆみ』)

### 平成の「最上川紅花ライン舟下り」

平成7年(1995)2月、株主が大石田町と町内外の企業、それに個人12名の出資による第三セクター方式の最上川舟下り株式会社を設立し、観光事業に乗り出した。資本金6,300万円、代表取締役が富樫啓一氏、取締役として柿崎力氏外6名をもって事業経営に臨んだ。

航路名	最上川紅花ライン舟下り
航路区間	大石田地内川端(起点)～猿羽根大橋(終点)17.5km
船数	紅花丸4隻、大石田丸1隻 計5隻 (各船共5トン未満)
運行期間	4月1日～11月30日
コース	猿羽根コース(約80分)、遊覧コース(約40分)
出航時間	午前10時と午後1時(定期便)

団体予約の場合は、希望の時間に合わせて運航する  
大石田の乗船場及び毒沢地内の着船場の使用許可を得ると共に、大掛りな整備を図った。第1便は平成7年11月1日に就航した。11月は運航回数11回、乗船客数221名、12月は4回の62名とまずまずのスタートをきって初年度は終わった。

遊覧の部としての来迎寺と川前間コースは、往時江戸時代に行われた「最上川舟遊び」にも通じたもので、大石田の特性を生かそうとしたものであった。舟運の隆盛時代に思いを馳せながら好評のうちにスタートしたが、その後乗船客数が思うように伸びず、徐々に衰微の兆しが現れ、一時営業を中止せざるを得ない状況に追い込まれた。

しばらく間をおいて、新たな改革案に基づき、人心一新を図りながら再出発する。新社長に渋谷耕治氏を迎え、町内外から出資者を募り、再出発した。しかし、これも思いに任せず平成16年頃には営業中止のやむなきに至った。

(資料提供 町役場産業振興課)

おわり

執筆者：小山 義雄 氏



最上川舟下りのポスター

**おみくじ運勢 大吉**  
ハッピーな年になりそう。広報おおいだの表紙に登場できるかも。いろいろなイベントに、輝くような満面の笑顔で、楽しく参加しよう。

**おみくじ運勢 中吉**  
二ユース玉手箱あたりに登場できるかも。雪に吉あり。里山スキー場でのイベントに参加したり、おしゃべりな雪灯籠を制作してみよう。

**おみくじ運勢 小吉**  
実は、釣った長グツの中に、100円が入っていたりして。ささやかな幸せがありそう。ゴミ拾いなどのボランティアに参加してみよう。

町の人口 平成24年1月1日現在		
世帯数	2,406戸(±0)	
総人口	8,199人(-6)	
男	4,022人(-4)	
女	4,177人(-2)	
(12月中の異動)		
出生	5人	転入 18人
死亡	15人	転出 14人

※この数字は住民基本台帳登録者数です。